６月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課技術支援係の取組～

岐阜県農政部農業経営課

６月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

中濃農林　■円空さといも　新規栽培者栽培研修会開催

６月２７日に円空さといもの新規栽培者１０名及び就農塾（ＪＡめぐみの主催）の受講生５名を対象に、作業を体験してもらう栽培研修会を行なった。

農業普及課では、研修会の中で、ＪＡめぐみの中濃本部と連携してダツかき、追肥、土寄せ等について指導を行なった。

７月中旬の次回の研修会では、２回目の追肥及び土寄せ作業の実施を計画している。

【ダツかきをする新規栽培者】

郡上農林　■夏秋いちご　新たな作型の検討

「ひるがの高原いちご組合」では、新たな作型として秋定植作型の検討を行っている。７月上旬から出荷が始まる慣行作型（春定植）に対して、秋定植作型では６月上旬から出荷が始まり、１カ月程度出荷が早まることが確認できた。

農業普及課では、引き続き生育調査、収量調査を行い、データ分析を行う予定である。

【夏秋いちごを早期に出荷】

恵那農林　■青ねぎ　青ねぎ部会定例会の開催

「坂祝町園芸振興会青ねぎ部会」では、毎月第２水曜日に定例会を開催し、市場動向や技術情報の交換を進めている。

農業普及課では、定例会にあわせて気象情報、出荷動向、栽培や試験ほ場の情報を提供している。

６月の定例会では梅雨、夏対策について技術情報を提供するとともに、単価安の状況の中、今後どのような計画で出荷をすべきか検討するよう提起した。

【定例会の様子】

恵那農林　スイートコーン・ブロッコリー　ミニ産地の活性化支援

恵那市明智町及び山岡町の「スィートコーン生産組合」では、総勢２７名の仲間とともに、生産量、販売量の増加をめざしスィートコーン生産に取り組んでいる。農業普及課では、毎年問題となる害虫の一種、アワノメイガの適期防除を支援するために、今年度からフェロモントラップを利用した発生消長をもとに防除対策を作成し、生産者へ情報提供している。

また、今年度は、スィートコーン定植前に設置したマルチや土中に残った肥料を収穫後にそのまま利用し、後作でブロッコリーの作付が計画されている。農業普及課では、ブロッコリーを地域の産地化品目のひとつとして位置づけており、今後も栽培面積、生産量の増加をめざす。

【生産圃場で検討する生産者の様子】

売れる農畜産物づくり

岐阜農林　■えだまめ　えだまめ塾・機械化実演会開催！

【実演会の様子】

えだまめ新規栽培者の掘り起しを行うため、関係機関と連携し、６月６日及び 22 日に「第１回えだまめ塾」を開講した。農業普及課では、えだまめ栽培の基本技術について指導を行った。

また、機械化による播種（移植）時の省力化を推進するため、関係機関と連携し、「えだまめ機械化実演会（参加者約 50 名）」を行い、省力化体系の提案及び移植機用の育苗指導を行った。

今後、８月上旬に収穫機による収穫実演会を実施する予定である。

西濃農林　■大豆　全国豆類経営改善共励会で農林水産大臣賞受賞！

【表彰を受ける組合代表】

「第４０回（平成２３年度）全国豆類経営改善共励会」の「集団の部」において、海津市の大和田営農組合が農林水産大臣賞を受賞し、６月２０日に東京都で表彰式が行われた。

当組合は、暗きょ排水整備に加えて明きょや弾丸暗きょの設置による排水対策の徹底、適期播種、中耕培土、適期防除などの基本技術の励行、計画的な水稲・小麦・大豆の２年３作ブロックローテーションの実施、品目毎の団地化による大型機械の効率的利用を行っている。平成 23 年産大豆では、単収 263kg／10a、労働時間 3.1 時間／10a、費用合計 9,373 円／60kg、上位等級比率 95%を実現しており、今後とも地域の大豆栽培の模範となることが期待されている。

農業普及課では、ＪＡにしみのと協力し、当組合に対して継続的な大豆栽培支援を行っている。その結果、当組合では、適期作業を確実に実施し、不作年においても大豆の収量・品質の低下を最小限に抑えている。

揖斐農林　■茶　チャトゲコナジラミの防除対策

【生産圃場で予察を実施】

平成２１年秋に管内の一部で確認されたチャトゲコナジラミが、平成２３年には、全域で確認されるまで広がった。体長１mm 程度の成虫が年４回発生し、年々発生量が増加している。チャトゲコナジラミは、作業者が吸い込んでしまうなど管理作業の妨げになっている。また、チャトゲコナジラミから排出される甘露がすす病を誘発するなど、被害が出はじめている。農業普及課では、病害虫防除所と連携して発生予察、防除対策に取り組んでおり、耕種・物理的防除、薬剤防除、天敵保護による密度低下を指導している。

下呂農林　■飼料用米　下呂市流「耕畜連携」を目指して

【畜産農家とともに生育視察】

下呂市では、『目指せ！下呂市流「耕畜連携」』を合言葉に、計画的な飼料用米利用を進めている。

本年度は、玄米利用だけでなく、畜産農家から要望があったＷＣＳ（ﾎｰﾙｸﾛｯﾌﾟｻｲﾚｰｼﾞ）に金山町で取り組む。生産されたＷＣＳは町内の繁殖牛に給餌され、嗜好性等をチェックする。農業普及課では、栽培指導や収穫時調査、給餌状況の把握等を行い、下呂市流耕畜連携を推進する。

農業経営課技術支援係　■キュウリ　黄化えそ病対策研修会を開催

昨年４月に JA にしみの海津キュウリ部会の要請を受け設置した「キュウリ黄化えそ病対策チーム※」が、部会の全体研究会で同病の効果的な対策について初めて発表した。

農業革新支援専門員から本病の発生のメカニズム及び防除対策を取りまとめたマニュアルを提示し、説明を行った。参加した生産者からは多くの質問、意見が寄せられ、活発な討論がなされた。今後も対策技術の生産者への徹底を図り、被害を最小限に抑えるよう指導支援を継続していく。

【対策を生産者と討論】

※農業普及課、農業技術センター、病害虫防除所、園芸特産課、農業経営課で編制

戦略的な流通・販売

東濃農林　■農産物直売所　きなぁた瑞浪がオープン

瑞浪市に農産物直売所「きなぁた瑞浪」が６月２０日にオープンした。前夜に台風４号が上陸して開催が危ぶまれたが、市内外から２千人を超える買い物客でにぎわった。地元産の新鮮な野菜、手作りの惣菜等約６千点が販売された。「瑞浪ボーノポーク」の販売、農家ダイニング「さくら」なども好評であった。

【きなぁた瑞浪ｵｰﾌﾟﾝの様子】

一方、きなぁた瑞浪出荷者協議会では、きなぁた瑞浪に安全な野菜を提供するため、６月６日に決起大会を開催し、ＰＯＳシステムの周知徹底が図られた。農業普及課では、各出荷作目の栽培履歴と一体化させた肥培管理や病害虫防除についての暦を作成し、ＰＯＳシステムへ反映させる作業を支援しており、これまで５２品目について整備が進んでいる。

また、ＪＡとうとの主催で、新規出荷者の掘り起こしを目的とした野菜づくり塾を開催し、６月２６日に開講式と第１回の講習を行った。当日は２７名が出席し、スイートコーンの講習と定植実習を行った。農業普及課では作物の選定、資料提供、講義などを行っており、今後スイートコーンとブロッコリーをテーマに５回の講座を開催する予定である。

多様な担い手の育成・確保

飛騨農林　■新規就農者　新規就農者交流会を開催

6 月 14 日に「指導農業士会飛騨支部」「青年農業士会飛騨支部」及び飛騨農林事務所が共催で、新規就農者と関係機関担当者約 60 名が一堂に会して交流会を開催した。

飛騨地域の新規就農者は、毎年 20 名程度と県内の約 3 分の 1 を占めるが、特に今年は、夫婦で飛騨へ移住された方など 27 名と平年に比べて多くなっている。

【新規就農者交流会】

交流会には、このうち 16 名が出席され、新規就農者の方々に将来の夢や目標を披露していただくとともに、関係機関からは支援内容の説明や激励が行われた。農業普及課では、栽培や経営指導を継続し、新規就農者の自立を支援していく。